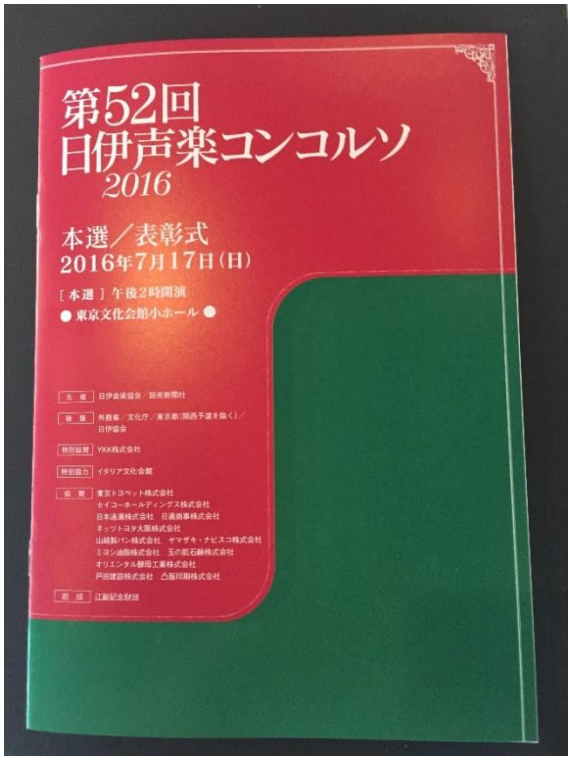
髙木竜馬さん応援レポート
第52回日伊声楽コンコルソ2016
本選／表彰式
2016年7月17日（日）
東京文化会館小ホール

声楽コンクールでのコンサート

日伊声楽コンコルソ。次世代の日本オペラ界を担う人材発掘を目指して行なわれる国内有数の声楽コンクールである。この日は第52回日伊声楽コンコルソの本選および表彰式。イタリア・オペラのアリアと歌曲を課題曲とした当コンコルソは、きわめて専門的、かつ芸術性の高いコンクールとして位置付けられている。毎年、100人を超える全国からの応募者で競われこれまでにイタリアをはじめ、世界の舞台で活躍する優秀な声楽家を多数輩出しているコンクールである。今回のエントリーは118名。審査員には、世界で活躍するオペラ歌手やアーティストの方々が、名を連ねている。
なお、財団は数年前から助成事業として日伊声楽コンコルソの支援を続けている。過去においては、財団の声楽部門奨学生であられた方々が数多く入賞されている。選考委員のお一人である堀内康雄氏は奨学生OBであり、９月８日の財団45周年コンサートにもご出演いただく予定である。



本選と表彰式のあいだに予定されている髙木竜馬さんのコンサート。「ミニコンサート」との位置づけだが、ピアノの名曲を並べたプログラムにそそられる。本選の開演は14:00。髙木さんは本選後に登場し、ピアノの名曲5曲を演奏してくれる予定である。

会場の東京文化会館小ホールは、言わずとしれた名ホール。音響の素晴らしさには定評がある。声楽家の方々の歌声も、髙木さんのピアノも楽しみだ。
3連休の上野の森は大混雑。蒸し蒸しとした気候などいざしれず、駅前から多くの人、人、人。
「・・・本日の公演、メインは当然のことながらコンクール本選ですので、自分がミニコンサートをする意義は、コンクールに集中して聴かれていたお客様にリラックスして聴いて頂くことだと認識しております。いわば、アンコールの立場と思われますので、曲目も親しみやすくアンコールに向いている曲を中心に予定しています」と、髙木さんの事前のコメントも届いている。

珠玉の名曲をダイナミックに聴かせる

写真ご提供：日伊音楽協会

14:00から始まった本選。予選を勝ち抜いた10名の出場者の方々が朗々と美しい歌声を聴かせてくれる。ソプラノ、メゾ、テノール、バリトン、バス・・・素晴らしい歌声にうっとり。

休憩をはさみ髙木さんの出番。本日の髙木さんのプログラムには、ピアノの珠玉の名曲が並ぶ。表彰式までの時間、5曲が奏でられる予定である。

大きな拍手に包まれて髙木さん登場。
1曲目、スカルラッティのソナタ 。「始まりにふさわしい曲。可愛らしいというか繊細な曲です。スカルラッティはイタリア生まれですがスペインで長く過ごし、当時のスペイン王女・バルバラ王女殿下のピアノの先生を務めていました。王女は音楽に造詣が深く、最新型のピアノを取り寄せたそうです。ピアノが届いたときの王女のわくわくした感じ、高揚感が表れるように弾くことができれば」と髙木さん。

2曲目、ショパン の幻想即興曲。「『即興曲』ということもあり、歌心といいますか、歌い方については、幾つかのパターンの引き出しを準備しておき、その日その時のインスピレーションにゆだねて 、いかに即興的に響かせることが出来るかということを考えています。幻想的な雰囲気を出して弾くことができたらと」。愛される名曲、身体でリズムを取りながら聴き入る方々も。

次の曲は、ラフマニノフ「パガニーニの主題による狂詩曲より 第18変奏曲 変ニ長調」（江口玲 編曲）。先日の財団総会で、急なリクエストに応え披露してくれた曲だ。数年前に江口先生にお目にかかった際、「ぜひ弾かせていただきたい」とお願いし、レパートリーに加わった曲なのだとか。ダイナミックに聴かせてくれた。
「・・・ラフマニノフは変奏曲の天才と思っています。発展のさせかたが本当に素晴らしくて。原曲はラフマニノフが、ロシア革命のあと逃げるように米国へ亡命した後に作られた曲です。変ニ長調という調性は、すごくかけはなれた世界であり、ロマンティシズムにあふれるというか、ノスタルジーを感じさせます。麦畑、ライラック、白樺・・・ラフマニノフの中のロシアへの強い郷愁が、この変ニ長調という調性にあらわれたのではないかと感じています」

声楽ファンの皆様からの美声のブラヴォー

4曲目、バラキレフ の「東洋風幻想曲 イスラメイ 変ニ長調」。昨年12月の財団コンサートでも圧巻の演奏を披露してくれた曲である。
「・・・この曲はバラキレフ自身が『技巧的曲を書く』という目的で書いた曲、いわゆる『ヴィルトゥオーゾ』ピースです。ラヴェルが、やはり超絶技巧曲である『夜のガスパール』を書いたとき、このイスラメイを技巧的に超えてやる！という意気込みだったという話や、リストが毎日この曲を練習し技術の衰えを防いだという話が伝わっています」。
東洋の雰囲気を漂わせる曲調、バラキレフが中央アジアのコーサカス・タタールを訪れた際、その地の民謡やリズムを学んで書き上げた作品なのだそう。独特のリズム、とにかく難しそうな調べに圧倒される。
「・・・技術的側面をたくさんお見せしたいという面と同時に、民族的な美しいメロディー、その両面を表現したいという思いで弾きました」と髙木さん。会場からは大喝采、毎曲ごとに飛んでいたブラヴォーが、ひときわ大きく、あちらこちらから。

プログラムラストの曲、ショパンの英雄ポロネーズ。髙木さんのリサイタルの際、アンコールで披露してくれる曲のひとつである。「・・・みなさんお好きな曲ですし、終わり方が、ラストにふさわしいと思って選びました」「ショパンは甘美な曲が多く、『優しい人』といった人物像に扱われる傾向がありますが、僕はショパンはもっと強い人だったのではないかと。強い祖国愛のもと、音楽によって、それを訴え続けていたように感じています。マズルカなど、ポーランドに根付いた曲を数多く発表していますし、この英雄ポロネーズも、祖国復興の想いを込めた曲だと思っています」。

ブラヴォーの声と大きな拍手に迎えられ、アンコール曲。プロコフィエフの「3つのオレンジのための恋」より行進曲。
「・・・声楽のコンクールでしたから、最後はオペラの編曲で締めたいなと思いまして。短い時間で華やかな曲をと選びました」。
軽快なリズムを刻み、満場の拍手を受けての終演だった。

写真はホワイエに設置されたモニター画像を撮影したものです

ホールの響きを堪能しながらの圧巻の演奏

終演後の髙木さんに話を聞いた；

ー本日のプログラムは；
「・・・主催である『日伊音楽協会』から、「イタリアの作曲家のものを」というご要望をいただき、最初にスカルラッティをもってきました。また、昨年12月の財団コンサートに足をお運びいただいていたとのことで、『あの時の曲をぜひ』とのリクエストをいただきましたので本日の構成となりました」。
『・・・コンクールに集中して聴かれていたお客様にリラックスして聴いてければ・・・』という事前のコメントどおり、親しみやすく愛されている名曲を中心に、圧巻の演奏を聴かせてくれた。

ーブラヴォー、本当にたくさんいただきましたね；
「・・・東京文化会館小ホールの響きが素晴らしかったです。本日はリハーサルがなかったので、どういうふうか確認できずに本番だったのですが、音響の素晴らしさにうれしくなってしまいました」

「・・・一番意識をしていたことは、（小ホールは）天井高があるので、音を上にあげて会場に響き渡らすことができるような、そういう演奏をと。『思い通りの響きを聴いていただくことが出来たら』と思いながら演奏しました」

「・・・ホールの響きを堪能させていただきました。終わるのが寂しくなってしまうような状況でした。お客様の中に声楽がお好きな方が多かったようで、ブラヴォーの声質が素晴らしかったです」

「そういう中で弾かせていただくと、こちらもどんどん気持ちが乗ってきます。そうした客席との相互反応、こちらが発信をして、お客様がそれを受け取ってくださるという、何と言いますかやりとりの妙を、とても感じます。あのような雰囲気の中で弾かせていただいて、ほんとうにしあわせでした」

この夏の一時帰国では、数々のリサイタルが続く。
「・・・・ウィーン ハプスブルク家の流麗で雅な雰囲気を称えるモーツァルトのソナタと、ウィーンを訪れた際に楽想を得て書かれた天国的なシューマンによるアラベスク。対して、ベートーヴェンの熱情とシューマンの交響的変奏曲には、ゲルマン民族の民族性が暗澹と漂っています。その対比を聴いて頂けましたら幸いです」と意気込みを語ってくれた。

髙木さん、素敵な演奏でした。
また聴かせてください！

終演後、楽屋で

＜演奏会概要＞

◆出演
本選：第52回 日伊声楽コンコルソ予選通過者
ミニコンサート：髙木竜馬(Pf)

◆プログラム
本選：イタリアオペラのアリア、イタリア歌曲

ミニコンサート：
D. スカルラッティ： ソナタ ホ長調 K.380
F. ショパン ：幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66
S. ラフマニノフ（江口玲 編曲）：
パガニーニの主題による狂詩曲より 第18変奏曲 変ニ長調
M. バラキレフ ：東洋風幻想曲 イスラメイ 変ニ長調
F. ショパン ：英雄ポロネーズ 変イ長調 作品53

アンコール曲
プロコフィエフ：「3つのオレンジのための愛」より行進曲

【コンサート・プログラム（表紙）】

第52回
日伊声楽コンコルソ
2016

本選／表彰式
2016年7月17日（日）

［本選］午後2時開演

● 東京文化会館小ホール ●

主　催　日伊音楽協会／読売新聞社

後　援　外務省／文化庁／東京都（関西予選を除く）／日伊協会

特別協賛　YKK株式会社

特別協力　イタリア文化会館

協　賛　東京トヨペット株式会社
セイコーホールディングス株式会社
日本通運株式会社　日通商事株式会社
ネッツトヨタ大阪株式会社
山崎製パン株式会社　ヤマザキ・ナビスコ株式会社
ミヨシ油脂株式会社　玉の肌石鹸株式会社
オリエンタル酵母工業株式会社
戸田建設株式会社　凸版印刷株式会社

助　成　江副記念財団

【コンサート・プログラム（P.1）】

ごあいさつ

第 52 回日伊声楽コンコルソの本選並びに表彰式を開催いたします。ここにお集まりのみなさんとともに喜びを分かち合いたいと思います。

1964 年、日本のオペラ界を担う人材の発掘、育成を目指して始まったこの日伊声楽コンコルソも今年は第 52 回を数え、すでに半世紀を超えて次の 50 年に向けての歩みを進み始めております。

主催してきました日伊音楽協会は 2014 年 4 月に公益財団法人となりました。公的にも認められた社会貢献活動をより強めていくとともに、イタリア音楽を愛する人々から支えられてきたことに、あらためて感謝申し上げます。一方の読売新聞社も、第 6 回から主催に加わり、この伝統あるコンコルソを支えてきました。

コンコルソはイタリア・オペラのアリアと歌曲を課題曲とした極めて専門的で、かつ芸術性の高いコンクールです。毎年 100 人を超える全国からの応募者で競われ、これまでにイタリアをはじめとして世界の舞台で活躍する優秀な声楽家を多数輩出しています。その世界で活躍されたオペラ歌手やアーティストがこのコンコルソの審査に当たってくださることも、主催者にとって、大変光栄なことだと感じています。

今年は計 118 名のエントリーがありました。ご参加いただいたすべての方々が、今後、広く活躍されることを心から願ってやみません。 今年は、このコンコルソ本選上位入賞者に加え、日本の代表的なオペラ歌手として活躍されているお二人、高橋薫子さんと小林一男さんをゲストにお迎えして、12 月 18 日よみうり大手町ホールにて披露演奏会を行います。みなさんのご来場を心からお待ちしています。

最後に、本コンコルソ開催にあたりご後援、ご協賛いただきました関係各位をはじめ、ご来場いただいたみなさまの温かいご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

公益財団法人 日伊音楽協会
読売新聞社

【コンサート・プログラム（P.2）】

第52回
日伊声楽コンコルソ審査員

（敬称略）

高　丈二（審査員長）
市原多朗
吉川具仁子
小餅谷哲男
斎藤言子
関　孝弘
田島好一
直野　資
林　誠
林　康子
堀内康雄
松本美和子
楢　貞子
（五十音順）

賞・賞金・賞品

第1位
賞金100万円
YKK音楽賞　賞金50万円
外務大臣賞、文部科学大臣賞、日伊音楽協会賞、読売新聞社賞、
イタリア文化会館賞、日伊協会賞、藤原義江賞楯、奥田良三賞楯

第2位
賞金30万円と日伊音楽協会賞、読売新聞社賞

第3位
賞金15万円と日伊音楽協会賞、読売新聞社賞

五十嵐喜芳賞
賞金20万円

岡部多喜子賞（歌曲賞）
賞金10万円

入　選
本選の入選者には、日伊音楽協会賞と読売新聞社賞を授与する

本コンコルソの賞金は、次の各関係等の協力による
日伊音楽協会、読売新聞社、日伊協会、江副記念財団、エリザベト音楽大学、国立音楽大学、神戸女学院大学音楽学部、昭和音楽大学、東京音楽大学、東邦音楽大学、桐朋学園大学、日本大学芸術学部音楽学科、武蔵川女子大学音楽学部、武蔵野音楽大学、東京二期会、日本オペラ振興会

日伊声楽コンコルソ 歴代第1位受賞者

年	回	第1位受賞者	声部
1964年	第1回	松本 美和子	メゾソプラノ（特賞）
		竹中 治利	バリトン
1965年	第2回	三上 茂子	ソプラノ
1966年	第3回	山城 美代子	ソプラノ
1967年	第4回	佐々木 郁子	ソプラノ
1968年	第5回	林　康子	ソプラノ
1969年	第6回	吉川 具仁子	ソプラノ
1970年	第7回	沼川 和子	ソプラノ
1971年	第8回	岡崎 雅明	バリトン
1973年	第9回	佐藤 康子	ソプラノ
1974年	第10回	出口 正子	ソプラノ
1975年	第11回	神谷 加寿子	ソプラノ
1976年	第12回	山路 芳久	テノール
1977年	第13回	黒崎 錠太郎	バリトン
1978年	第14回	白石 邦憲	テノール
1979年	第15回	市原 多朗	テノール
1980年	第16回	長谷川 左	バリトン
1981年	第17回	太田　実	バリトン
1982年	第18回	松下 武士	テノール
1983年	第19回	佐々木 千賀子	ソプラノ
1984年	第20回	藤田 伸子	ソプラノ
1985年	第21回	高橋 百子	ソプラノ
1986年	第22回	島田 美香	ソプラノ
1987年	第23回	安達 さおり	ソプラノ
1988年	第24回	重松 みか	メゾソプラノ
1989年	第25回	吉元 万夕美	ソプラノ
1990年	第26回	藤田 泰彰	テノール
1991年	第27回	志村 文彦	バス
1992年	第28回	田島 達也	バス
1993年	第29回	西村 晴子	ソプラノ
1994年	第30回	宮内 直子	ソプラノ
1995年	第31回	徳武 雪子	ソプラノ
1996年	第32回	高尾 佳奈	メゾソプラノ
1997年	第33回	斎藤 紀子	ソプラノ
1998年	第34回	夛川 章子	ソプラノ
1999年	第35回	谷　友博	バリトン
2000年	第36回	中島 康晴	テノール
2001年	第37回	木下 美穂子	ソプラノ
2002年	第38回	野田 浩子	ソプラノ
2003年	第39回	小野 和歌子	メゾソプラノ
2004年	第40回	村上 敏明	テノール
2005年	第41回	羽賀 浩樹	バリトン
2006年	第42回	加藤 悟吾	バリトン
2007年	第43回	廣田 美穂	ソプラノ
2008年	第44回	大澤 一彰	テノール
2009年	第45回	山本 耕平	テノール
2010年	第46回	岡田 日子	ソプラノ
2011年	第47回	竹多 倫子	ソプラノ
2012年	第48回	宮里 直樹	テノール
2013年	第49回	山口 安紀子	ソプラノ
2014年	第50回	笛田博昭	テノール
2015年	第51回	加藤史幸	バリトン

【コンサート・プログラム（P.3）】

第52回日伊声楽コンコルソ

テノール　1　川上　晴央　（かわかみ　はるお）　ピアノ　多田 聡子
- ポンキエッリ　《ラ・ジョコンダ》より　"空と海"
- ドニゼッティ　《アルバ公爵》より　"清く美しき天使"
- トスティ　忍なんかもう

ソプラノ　2　仁戸部　桃子（にとべ　ももこ）　ピアノ　高橋 陽子
- ヴェルディ　《運命の力》より　"神よ、平安をあたえたまえ"
- ヴェルディ　《シモン・ボッカネグラ》より　"この仄暗い朝の時に"
- ベッリーニ　喜ばせてあげて

メゾソプラノ　3　但馬　由香　（たじま　ゆか）　ピアノ　菊地 沙織
- プッチーニ　《エドガール》より　"エドガール、あなたの魂には願い考えが"
- ロッシーニ　《セミラーミデ》より　"ああ！絶えずあの日を思い出す"
- ロッシーニ　何も言わずに

バス　4　田中　大揮　（たなか　たいき）　ピアノ　大町 彩乃
- ヴェルディ　《シモン・ボッカネグラ》より　"哀れなる父の例は"
- ベッリーニ　《夢遊病の娘》より　"懐かしいこの美しい国"
- ベッリーニ　お願いだ、私の美しき理想の人よ

テノール　5　澤原　行正　（さわはら　たかまさ）　ピアノ　高橋 健介
- ヴェルディ　《椿姫》より　"彼女から遠く離れて～燃える心を"
- ドニゼッティ　《ランメルモールのルチア》より　"我が祖先の墓よ～やがてこの世に別れを告げよう"
- チマーラ　幽玄

「ミニコンサート」　本選終了後、表彰式までのお時間は、フレッシュ

髙木竜馬
Ryoma Takagi（ピアノ）

スカルラッティ / ソナタ ホ長調 作品380
Domenico Scarlatti　Sonata in mi maggiore K.380 L.23

ショパン / 幻想即興曲 嬰ハ短調　作品66（遺作）
Fryderyk franciszek Chopin　Fantasie-Impromptu en ut dièse mineur op.posthume 66 ct46

ラフマニノフ / 『パガニーニの主題による狂詩曲』作品43より 第18変奏曲
Sergei Vasil'evich Rakhmaninov　Rapsodie sur un theme de Paganini op.43

バラキレフ / 東洋風幻想曲《イスラメイ》
Mily Alekseevich Balakirew　Oriental Fantasy "Islamey"

ショパン /《英雄》ポロネーズ 変イ長調 作品53
Fryderyk franciszek Chopin　Polonaise n.6 en la bémol majeur "héroïque" op.53 ct155

本日のミニコンサートで演奏する髙木さんは、本コンクールにも助成いただいている公益財団法人江副記念財団から、世界で活躍する人材育成支援事業の対象者として奨学生に選出されています。現在も国内外で幅広く活躍する将来有望な若手音楽家の演奏をお聴きください。

本選出場者 演奏曲目

バリトン　6　小林　啓倫　（こばやし　ひろみち）　ピアノ　高田 絢子
- ドニゼッティ　《ドン・パスクワーレ》より　"天使のように美しく"
- ヴェルディ　《ファルスタッフ》より　"夢か？まことか？…"
- レオンカヴァッロ　朝の歌

ソプラノ　7　竹之内　淳子（たけのうち　じゅんこ）　ピアノ　村上 尊志
- プッチーニ　《マノン・レスコー》より　"ひとり捨てられて"
- プッチーニ　《蝶々夫人》より　"ある晴れた日に"
- トスティ　むなしく祈る

バリトン　8　ヴィタリ・ユシュマノフ（ヴィタリ　ユシュマノフ）ピアノ　山田 剛史
- ヴェルディ　《仮面舞踏会》より　"汝こそ心を汚す者！"
- ヴェルディ　《ドン・カルロ》より　"私の最後の日が参りました"
- ヴェルディ　この母屋に近付いてはならぬ

テノール　9　小笠原　一規（おがさわら　かずき）　ピアノ　市川 真一郎
- プッチーニ　《トスカ》より　"妙なる調和"
- プッチーニ　《ラ・ボエーム》より　"冷たき手を"
- スカルラッティ　愛はすでにガンジス川より

ソプラノ　10　高品　綾野　（たかしな　あやの）　ピアノ　多田 聡子
- ドニゼッティ　《ランメルモールのルチア》より　"あたりは沈黙に閉ざされ"
- ロッシーニ　《セミラーミデ》より　"麗しい光が"
- ロッシーニ　約束

※各出場者の曲目は必ずしも演奏順にはありません。
※歌詞は参加申込書記載のままで記載しています。

なピアノの演奏をどうぞお楽しみください。

1992年千葉市生まれ。渋谷幕張高校在学中にウィーン国立音楽大学コンサートピアノ科に合格。現在同大学に特別奨学生として在学し、ミヒャエル・クリスト氏よりドイツ奏法を学ぶ。2015年秋より、イタリアのイモラ国際ピアノアカデミーに併修し、ボリス・ベトルシャンスキー氏のもとでロシア奏法の研鑽に励む。エレーナ・アシュケナージ、中村紘子、パウル・バドゥラ＝スコダ各氏に師事。室内楽をクリストフ・エッケナー氏に師事。指揮法は小澤征爾氏からレッスンを受け、現在、ウィーン国立音楽大学で指揮伴奏助手を務め湯浅勇治氏に師事。

第1回日本チャイコフスキーコンクール、モスクワ第2回ネイガウスフェスティバル、キエフ第6回ホロヴィッツ国際ピアノコンクールで各々優勝。昨年度は、若手登竜門としてつとに知られる第19回浜松国際ピアノアカデミーコンクールで第1位に輝く。また、一世紀を超える伝統をもつウィーンの第38回エレーナ・ロンプロ＝シュテパノウコンクールで第1位。ウィーンで開かれたベーゼンドルファーコンクールでは、日本人過去最高位となる第2位受賞。

モスクワ音楽院大ホール、ローマテアトロヴァッレ、キエフ国立オペラ座、ニューヨークスタインウェイホール、サントリーホール、みなとみらい大ホール、新国立劇場、紀尾井ホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、モスクワクレムリン宮殿、ウィーン楽友協会、ウィーンコンツェルトハウス等々にて演奏。ロシアヤロスラブリ響、ウクライナ国立フィル、ウィーン室内管弦楽団、神奈川フィル、ニューフィル千葉、セプトニスちば、東京交響楽団、東京フィルと共演。TV「題名のない音楽会21」等に出演。（公財）江副記念財団奨学生。